

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

瑞浪市地域公共交通会議

平成19年1月24日設置

平成26年3月31日 瑞浪市地域公共交通総合連携計画
(計画期間：平成26年4月～令和6年3月)

令和3年6月25日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
各路線状況により、必要な見直しや効率化を図り、持続可能な地域公共交通サービスの議論が進むことを期待する。	<ul style="list-style-type: none">・ 利用状況等により、利用実績のない乗降場所を廃止。・ 利用者アンケートを実施し、ニーズの把握を行った。 実施期間 R3.6.29～8.6 回答者 20名(バス) 289名(デマンド)・ 地元に関公共交通に関する要望の集約した。 実施期間 R3.6.28～8.31	利用状況や利用者アンケート、市民からの要望を精査し、対応可能な内容については、適宜改正する等、更なる利便性の向上と、持続可能な地域公共交通サービスの維持を確保していく。
地域公共交通活性化再生法の趣旨を理解し、現計画の見直しの検討をすること。	令和5年度に公共交通計画の策定を実施する。計画の策定に向け、スケジュールや記載すべき項目等についての検討を行った。	令和4年度については、策定の事前準備として、公共交通計画の基本方針や特性、地域課題等の整理を行う。

■ 瑞浪市内の公共交通

J R 鉄道	市内に2 駅 (J R 瑞浪駅、 J R 釜戸駅)
東鉄バス	東濃鉄道株式会社運行。明智線、瑞浪 = 駄知 = 多治見線の2 路線。地域間幹線系統。
コミュニティバス	市運行。9 路線 (瑞浪中央線、山田線、土岐線、学校線、日吉線、萩原線、陶線、釜戸 = 大湫線、釜戸 = 平山線)
デマンド交通	市運行。3 ルート (日吉 = 明世ルート、大湫 = 日吉東部ルート、釜戸ルート)
タクシー	4 事業者 (平和タクシー、東鉄タクシー、小林タクシー、 S K U タクシー)

■ 「瑞浪市地域公共交通総合連携計画」

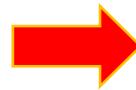
地域ニーズを把握し、公共交通の利用の拡大を図ることを目的に同計画を策定。

(計画期間：平成26年度～令和5年度)

- 基本方針1 公共交通機関の機能分担と連携強化によるネットワークの再構築を目指す
- 基本方針2 協働による持続可能な仕組みづくりの確立を目指す
- 基本方針3 瑞浪市コミュニティバスとスクールバスとの一体的な運用を目指す

■ 「瑞浪市生活交通ネットワーク計画」

連携計画に基づき、公共交通体系を構築するため、市内の交通について具体的な内容を定めることを目的に平成27年度に策定。



- 交通不便地域の解消
- 公共交通ネットワークの構築
- サービス水準の維持、向上

■ 公共交通体系について

北部地域と中心部・南部地域に切り分けて公共交通体系を構築。

(1) 北部地域

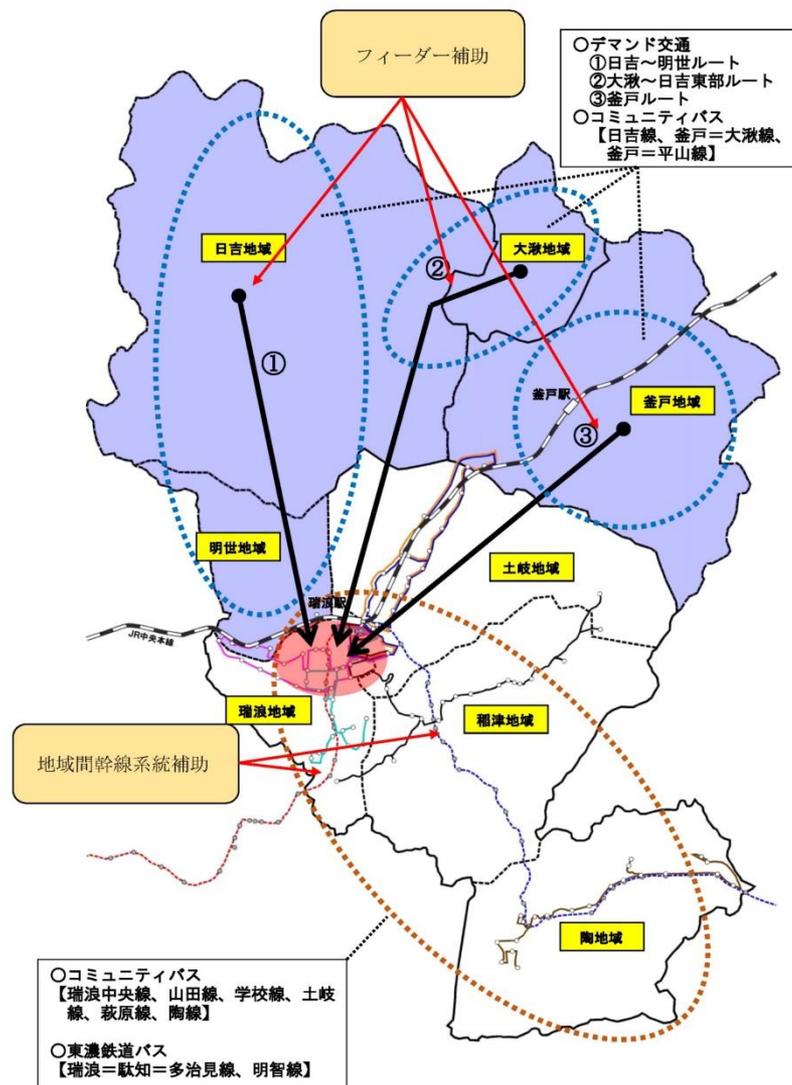
- ・平成28年10月にデマンド交通を導入。
- ・平成29年4月にデマンド交通釜戸ルートの運行開始。
- ・通学対応については、瑞浪北中学校はスクールバス、小学校はコミュニティバスとする。

(2) 中心部・南部地域

- ・東濃鉄道バスとコミュニティバスの運行。
- ・瑞浪南中学校は、スクールバスを運行。

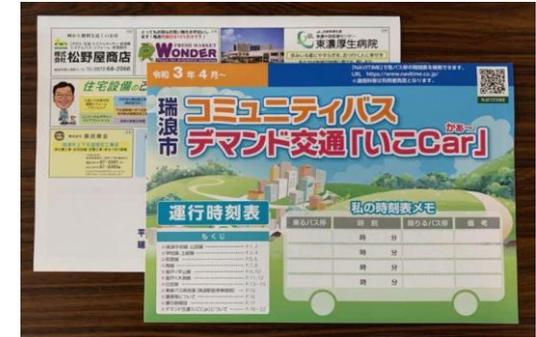
■ 公共交通計画策定へ

- ・既存の計画は令和5年までの10年計画であり、策定当時とは地域の情勢等が変化している中で、現在の地域公共交通の実情に即した計画を令和5年度中に策定する。
- ・策定にあたっては、課題の把握、利用者の実態調査等を分析し、策定を進める。



1.制度のPR

- ・広報紙、ホームページにおいてデマンド交通の制度周知を徹底。
- ・時刻表を全戸配布（冊数：約12,500部）。
- ・区長会でデマンド交通の説明会を実施。



2.自治会の要望集約、利用者アンケート

- ・自治会要望について、各区単位で要望の集約。
- ・コミュニティバスの利用者、デマンド交通の登録者にアンケートを実施。
- ・利用者等の要望をまとめ、合理性を考慮したうえで、**次年度の運行内容改正案に反映**。

3.運転免許証自主返納支援制度の実施

- ・運転免許証を自主返納した高齢者に対し、バスやデマンド交通、タクシー利用券の補助を実施（金額はいずれも5,000円分）。
- ・利用券を補助することによって、**バスやデマンド交通等への利用転換を期待**できる。

瑞浪市高齢者運転免許証自主返納支援制度実績

H30	H31/R1	R2	R3
71	92	85	46

※R3は11月末時点の数値

公共交通ネットワークへの位置づけ

- ・デマンド交通は、市の北部地域である交通不便地域で運行しており、郊外から市中心部や鉄道、バス等、その他の公共交通機関と接続する重要な交通手段となっている。
- ・コミュニティバス及びデマンド交通（フィーダー補助系統）は、東濃鉄道バス（地域幹線系統）と瑞浪駅前と接続。

1. コミュニティバス

目標値：年間利用者数 80,000人

※第6次瑞浪市総合計画にて、過去の実績から積算した目標値

単位：人

	萩原線	陶線	釜戸 大湫線	益見線 学校線	土岐線	日吉線	瑞浪 中央線	山田線	釜戸 平山線	合計
H30	5,208	1,361	8,656	6,598	5,403	16,997	11,962	17,243	3,971	77,399
R元	4,792	1,457	5,140	17,130	5,525	12,385	12,023	15,834	3,539	77,825
R2	3,439	1,113	5,822	12,710	3,883	12,062	8,531	12,222	2,935	62,717

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が激減した
- ・郊外に比べ、市中心部がよりコロナ禍の影響を受けた

2. 市民アンケート

調査内容：「瑞浪市は、利用しやすい公共交通が整っているまちだと思いますか」

目標値：思っていると回答した人数の割合 47.0%

単位：%

H30	R元	R2	R3
33.4	27.5	30.5	31.3

要望・意見等

- ・運行ダイヤや便数の増加
- ・乗降場所の追加
- ・郊外の移動が不便 ...etc

3. デマンド交通

目標値：年間利用者数 4,500人（実績 H30：3,072人、R元：2,535人、R2：1,957人）
第6次瑞浪市総合計画での設定目標

設定根拠：250日（運行日）×18便×50%（稼働率）×2人（乗合率）

●国補助（フィーダー補助）に関する指標

ルート	令和3年度目標値 (2020.10~2021.9)	令和3年度実績値 (2020.10~2021.9)	達成状況（達成率）
①日吉＝明世	1日2.0便 4.0人	1.99便 2.96人	未達成（便99.5%・人74.0%）
②大湫＝日吉東部	1日1.5便 3.0人	1.31便 1.88人	未達成（便87.3%・人62.7%）
③釜戸	1日1.5便 3.0人	2.14便 3.97人	達成（便142.7%・人132.3%）
合計	1日5.0便 10.0人	5.44便 8.81人	達成（便108.8%）・未達成（人88.1%）

- ・コロナ禍の影響により、**生活確保維持改善計画上の目標数値を下方修正**。
※令和元年度から令和2年度の減少率を基に修正。
- ・①、②ルートともに**コロナ禍の影響により、目標未達成**。特に②ルートは、コロナ禍以前より、利用者が伸び悩んでおり、課題となっている。
- ・③ルートは、**目標達成**。運行開始年度より徐々に利用者が増えてきていることから、デマンド交通の制度が地域に根付いてきたものとする。
- ・利用者ニーズの把握に努め、どのような運行内容であれば利用者が増加するかを突きとめ、乗降場所やダイヤ等を適宜見直していく。また、地域公共交通計画の策定時に地域の課題やサービス水準等を明確にし、反映させる。

令和4年1月14日15時開催の令和3年度第2回瑞浪市地域公共交通会議にて、自己評価を実施

課題

①コミュニティバス・デマンド交通の利用者減少

- ・特に陶線は他路線と比較し、利用者の少なさが際立っている。
- ・デマンド交通の大湫ルートが30%未満の稼働率。

②デマンド交通制度の周知不足

- ・令和3年11月末時点での利用登録者数
⇒日吉321人 大湫109人 釜戸204人
- ・登録者数を増やし、制度の周知が必要。

③地域交通の課題の明確化

- コミュニティバス ⇒ 陶線 / デマンド交通 ⇒ 大湫ルート
- ・上記の利用者数が本市の地域交通の主な重点課題となるので、原因や利用実態等の中身の把握が必要。
 - ・東濃鉄道及び近隣市との連携及び状況把握。

対応方針

①利用者アンケートや地区要望により、利用者ニーズの把握に注力

- ・R4年8月頃に利用者アンケート
- ・6月~8月に地区要望の集約

②広報紙や制度説明会での周知機会を増加 ※各区長会開催日に合わせて

- ・特に利用者の少ない大湫地区は登録者の増加を目的に重点的にPRを実施。
- ・高齢者運転免許証自主返納支援制度と合わせてPRを行い、公共交通機関への利用転換を促しつつ、デマンド交通の利用増加を図る。

③地域公共交通計画策定のための基礎資料作成

- ・地域交通の解消すべき課題の洗い出し。
- ・課題点について、東濃鉄道、近隣市及び地元とも連携し、解消に向けて同計画に記載する事項の調査、分析等を実施。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月14日

協議会名: 瑞浪市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
平和コーポレーション株式会社	日吉＝明世ルート	<ul style="list-style-type: none"> ・各路線の利用状況を把握するため、地元に対して、要望調査を行うとともに、デマンド交通利用者にアンケートを送付し、利用者ニーズの把握に努めた。 ・利用の少ない乗降場所については、廃止を検討する等、路線の利用状況に応じて、見直しを実施した。 ・コロナ禍による影響で、利用者の減少が見られたため、生活交通確保維持改善計画内の目標数値を見直し、下方修正した。 	A 計画どおり事業は実施された。	C 1日の稼働便数は6便中1.99便、利用人数は2.96人で、目標値(1日2便、利用人数4人)に対し、稼働便数は僅かに、利用人数は大幅に達成できなかった。主に高齢者が通院や買い物足として利用しているため、移動中及び目的地での新型コロナウイルスの感染を危惧し、利用機会を減らしていることが理由として考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働便数等について、計画の目標数値達成を目指し、新規利用者の増加を図るため、引き続き制度周知に努める。 ・アンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。 ・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
平和コーポレーション株式会社	大湫＝日吉東部ルート	<ul style="list-style-type: none"> ・各路線の利用状況を把握するため、地元に対して、要望調査を行うとともに、デマンド交通利用者にアンケートを送付し、利用者ニーズの把握に努めた。 ・コロナ禍による影響で、利用者の減少が見られたため、生活交通確保維持改善計画内の目標数値を見直し、下方修正した。 ・令和5年度に地域公共交通計画を策定するにあたり、デマンド交通の利用が激減している大湫地区を課題とする重点地区として、記載する。 	A 計画どおり事業は実施された。	C 1日の稼働便数は6便中1.31便、利用人数は1.88人で、目標値(1日1.5便、利用人数3人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成できなかった。主に高齢者が通院や買い物の足として利用しているため、移動中及び目的地での新型コロナウイルスの感染を危惧し、利用機会を減らしていることが理由として考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働便数等について、計画の目標数値達成を目指し、新規利用者の増加を図るため、引き続き制度周知に努める。 ・アンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。 ・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。 ・令和5年度作成予定の公共交通計画において、大湫地区を計画内の課題地区として記載し、どの程度のサービス基準が必要であるか等の具体的な目標を設定していく。 ・地区の取組みとしては、大湫町の広報紙にデマンド交通の利用状況と利用を呼び掛ける記事を掲載している。 ・引き続き区長会等に出向き、デマンド交通の制度についての説明会を実施する。
平和コーポレーション株式会社	釜戸ルート	<ul style="list-style-type: none"> ・各路線の利用状況を把握するため、地元に対して、要望調査を行うとともに、デマンド交通利用者にアンケートを送付し、利用者ニーズの把握に努めた。 ・利用者の要望により、乗降場所を新設し、利便性の向上を図った。 ・利用の少ない乗降場所については、廃止を検討する等、路線の利用状況に応じて、見直しを実施した。 ・コロナ禍による影響で、利用者の減少が見られたため、生活交通確保維持改善計画内の目標数値を見直し、下方修正した。 	A 計画どおり事業は実施された。	A 1日の稼働便数は6便中2.14便、利用人数は3.97人で、目標値(1日1.5便、利用人数3人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成することができた。コロナ禍による外出自粛ムードが続くなかでも唯一利用者数を落とすことなく推移できた。運行開始のH29より、年々稼働率が上昇していることから、デマンド交通が地域に根付いてきたものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・より高い目標を設定し、今後も利用者の増加を図り、稼働率を上げられるよう、制度周知等に注力していく。 ・アンケート等を通して、利用者のニーズを把握し、利便性の向上につなげていく。 ・乗降場所や運行ルートについて、効率的な運行ができるよう、適宜見直しを図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月14日

協議会名:	瑞浪市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>当市の公共交通の構築にあたっては、次の方針で取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 交通空白地域の解消 昼間の買い物や通院目的で利用できるコミュニティバスが通っていない地域を極力解消する。(2) 公共交通ネットワークの構築 市内の公共交通ネットワークを一体的にとらえ、維持、活性化させる観点から、各公共交通の連携を強化する。(3) サービス水準の維持、向上 地域ごとに、各公共交通のサービス水準をできるだけ維持することとする。 <p>デマンド交通の運行(対象事業)は交通空白地域を解消し、地域間公共交通を補完する目的がある。</p>